



アイロン一つで 新品と同様に仕上げる

職業としての古い歴史を持つ洗濯

室町時代には紺屋（染物屋）が公家の服の洗張りをおこなうなど、職業としての洗濯は古くからありました。しかし石鹸を使用した西洋式洗濯が日本でおこなわれたのは幕末にペリーが来航した時、艦隊から提供された石鹸で乗組員の服を洗ったのが最初だといわれています。

洗濯は単に衣類に付いた汚れを落とし、きれいにするだけではありません。洗うことによって衣服を長持ちさせることができ、身だしなみを整えることで気持ちを引き締めるためにも大切です。

クリーニングの発展は洋服の普及とも関係しているようです。ただ、明治の終わり頃まで洋服を着用する人は軍人や役人、実業家などで一般庶民の多くは和服を着用していました。その後、関東大震災や東京のデパート火災などで男女を問わず洋服を着用する人が増えると共に、クリーニング店も増加していきました。

手作業でしかできない最高の仕上がり

石鹸を使い手洗から始まったクリーニング業ですが、洗濯機、ドライクリーニング、様々な洗剤や溶剤、アイロン、プレス機など次々と新しい機器が開



発、導入されていきます。その一方で衣服にも様々な素材が使われるようになると同時に、個性的なファッションの衣服が増え、家庭では簡単に洗いきれぬ衣服も増えてきました。汚れや染みをきれいに落とすのは当然です。また型くずれしたり、ボタンや装飾が変形しないような洗濯方法を見極める確かな目も必要になってきました。さらに大事なことがアイロンで新品の時と同じような状態にまで仕上げることです。

アイロン台以外に馬と呼ばれる仕上がり台がありますが、背広などは20以上もの馬を使い、背中、袖、肩、裾などを仕上げていきます。もともとが平らな布を人の体に合わせてつくられた服です。洗うことで布が伸びたり縮んだりします。それを元通りの形に戻す作業はまさに熟練の技です。組合ではクリーニング師やボイラー取扱主任など仕事に必要な資格を取得させるためのクリーニング学校も開いて

いますが、蒸気を出さず、温度の自動調整装置もないアイロンを使つての高度な仕上げ技術なども教えています。



DATA ■愛知県クリーニング生活衛生同業組合
所在地：千種区大久手町5-11

- ・昭和32年：愛知県クリーニング環境衛生同業組合設立
- ・昭和42年：愛知県クリーニング研究所開設
- ・昭和51年：クリーニング学校開校
- ・平成13年：愛知県クリーニング生活衛生同業組合に名称変更
- ・平成19年：組合創立50周年